

日本で初めてフォニックス学習を実践

株式会社mpi松香フォニックス
代表取締役社長 竹村 千栄子さん

英語学習の定番であるフォニックス。綴りと発音のルールを学び、英語を聞く、話す、読む、書くことの土台となる学習法である。この手法を駆使した英語指導を日本で初めて行ったのが、株式会社mpi松香フォニックスである。1979年の創立以来、日本全国に教室を拡大。今では500の教室を擁するほど業績を伸ばしている。さらに時代に則した教材開発や指導者の育成など多岐にわたり教育界を支えている企業だ。新学習指導要領により、小学校から英語4技能を身につけることが求められる時代に、フォニックスはどういった効果があるのだろうか。これからの英語教育のあり方についてうかがった。



フォニックスを基盤に英語教室を全国各地に展開

——現在の事業をお聞かせください。

竹村 千栄子氏（以下、竹村） 弊社は「英語教室」「教材の開発・出版」「指導者の育成」の3つの事業を運営しています。英語教室ではフォニックスを柱としたmpimeソッドで授業を行っており、東京の本部校をはじめ、全国に約500のパートナー教室があります。フランチャイズ制ではなく認定パートナー制度という方法を採用しています。当時から珍らしいスタイルですが、弊社にも教室を運営する会員様にもメリットがあるビジネスの形だと自負しています。

——共通しているのは指導メソッドと使用教材で、本部からは必要に応じてアプリや補助教材を提供しています。また定期的に会員向けセミナーを開催し、最新の指導法なども提供しています。

——英語教室の特徴をご説明ください。

竹村 対象年齢は幼児から中学3年生で、1クラス10人程度の少人数制で行っています。授業は総合



幼児から中3生を対象にフォニックスを活用した授業を行っている

的な英語力を身につけるために幼児期は歌や絵本を中心に、小学低・中学年はフォニックスを中心に学びます。高学年以降は自己発信力を身に付けるため、英語4技能をバランスよく学びます。どのステージでもコミュニケーションのための英語を教えるということとを大切にしています。

——授業ではすべて弊社のオリジナル教材を使います。4つのカテゴリがあり、1つ目は歌やチャンツ、リズム。初めて英語を学ぶお子さんを引きつけるのは、英語特有のリズムです。体を動かしながらリズムを身につけていきます。その他に絵本、会話・TAGAKI、フォニックスがあり、この4カテゴリをバランスよく学びます。

mpimeソッドの目標は「15歳

Zoom up Interview



フォニックスに始まり、英会話したいそうなど多種多様なテキストを開発

——生徒さんはどんな様子ですか。

竹村 座学だけでなく歌やアクティビティを通して学びますので生き生きしています。低学年の時は体を動かしながら発音の基礎を学ぶ「発音たいそう」や「英会話たいそう」という独自の教材で英語に親しみます。高学年や中学生になると「英語で意見が言えるようになった」「学校の授業が楽しくなった」、そんな感想をよく耳にします。特に英検対策を行っているわけではなく、英検に合格した」という生徒さんも大勢います。生徒用に「MAB (My Achievement Book)」という学習記録帳があります。何が出来たようになったかをCANDID評価できるものです。学習の成果を可視化することで、モチベ

——フォニックスを導入された経緯を教えてください。

竹村 1975年、創業者の松香洋子が子どもを連れてアメリカに3年間留学しました。松香は日本の私立高校英語科の教員をしていたのですが、現地で初めて見たフォニックスに衝撃を受けたそうです。帰国後、一旦は高校教師に戻ったのですが、当時の高校英語は受験対策一辺倒の詰め込み型でした。これではいけない、真の英語力が身につかない、子どもには先天的な語学習得力が備わっている、それを伸ばしたい、そう考えて退職し、1979年に弊社の前身となる松香フォニックス研究所を友人2人と立ち上げました。松香は日本に初めてフォニックスを導入した人物です。現在は経営からは一線を引いていますが、名誉会長として新たな教材の開発に取り組んでいます。

——創業された当時はいかがでしたか。

竹村 日本にはフォニックスを知る人がほとんどいない状態でした。そのため最初は理解してもらえない非常に苦労したそうです。創立後10年間は教えたいのか、



『小学生のフォニックス』は英語が初めての子どもでも楽しく学べるようにイラストをふんだんに使いわかりやすいルールを紹介

——フォニックスは英語学習にどういった効果があるのでしょうか。

竹村 フォニックスはつづりと音の規則性を学び、読み・書きの力を身に付ける学習法で、音と文字の世界をつなぐ橋の役割をします。どんな言語学習でも、まずは音声獲得期があり、それは発話や読み・書きにつながります。しかし日本では、残念ながら発音をカタカナで表記し、発音記号を使うのが一般的です。フォニックスではこれらを使用しません。学習の前に音声をたくさん聴くのがポイントですが、段階的にルールを学ぶことで読める単語が増え、つづりを書けるようになります。発音のポイントも同時に学べるので、日

——指導者の育成に力を入れているとお聞きました。

竹村 創立10年目に指導者向けのセミナーを始めました。当時は指導者を対象としたセミナーがまだ少なかったため、開催のたびにキャンセル待ちがでるほどでした。以後、教室を開設したい方向けのセミナーをはじめ、小学校英語に特化したJ・SHINEプログラムやフォニックス指導者コースなど、多種多様なセミナーを行っています。第二言語習得について、フォニックスの理論、英語で英語を教える指導法などを講義と実習体験、グループディスカッションなどを通してアクティブに学んでもらいます。必ず、デモレクソンをする時間を設けていて、受講生が先生役、生徒役になって模擬授業を行います。現在、すべてオンラインで開催しておりますが、年間に約300回以上開催しており、いずれも好評をいただいています。

——どうしたら教室を開くことができるのでしょうか。

Zoom up Interview



自分の頭で考えたことを英語で書いて、伝えるためのテキスト「TAGAKI®」

竹村 パートナー教室を開業するためには、指導者養成セミナーを受講していただきます。修了後、中級認定試験（筆記、リスニング、デモレクソン）に合格された方に、認定証を授与し、mpi English Schools（英語教室）を開くことができます。全国に約500の教室がありますが、どの先生も英語を教えるのが大好きな素晴らしい指導力を持った方ばかりで、指導に熱い思いを抱いておられます。

常に時代に則した教材を開発 行政との共同プロジェクトも

英語学習の教材も多数開発していらっやいます。

竹村 創業以来、様々な教材を開発・販売してきました。2001年には松香洋子が執筆した「英語ができる12歳」が日本図書館協会認定図書に選ばれたほか、全国の小学校で使われている「英会話したいそう」や「バナナじゃなくてbananaチャント」など、300点以上の教材を開発してきました。2015年には、大阪府

教育委員会（現大阪府教育庁）の発注でフォニックスを活用したDVD教材を製作しました。公立小学校は英語の指導者不足という問題を抱えています。その一助になればと動画を使って正しい発音や文字と音の関係を学ぶ教材を製作しました。制作には約3000人の大阪府の小学生と実践研究を行いながら1年半を費やしました。その甲斐あって現在、「小学校英語SWITCH ON!」※の名前で全国1800校以上の小学校で活用いただいています。

※大阪府内では「DREAM」という名称で活用されています。

——おすすめの教材を教えてください。

竹村 3年前に「TAGAKI®（多書き）」という教材を発売しましたが、すでに10万冊を超え、多数の塾や学校で使っていたでいます。TAGAKI®は少ない文字数から徐々に語数を増やし、自分の考えを英語で書くためのテキストです。ただ書くのではなく、1つのレベルで違うトピックについて30回書いて次のレベルに上がっていく、つまり、上へ上へと「多書き」していきます。書くことで思考を整理することができ、内容を声に出して練習する仕掛けがあり、自然な英会話力が身につく

く教材になっています。ライティング教材ですが同時に英会話力も身につく画期的な教材です。またデジタル教材開発にも力を入れており、学習塾向けのeラーニング「mpi英語プログラム」や小学生向けのアプリのコンテンツを（株）サインウェーブと（株）メイツへ提供しています。

様々な人の支えで業績を伸張 今後も英語教育を担っていく決意

——創業以来、着実に業績を伸ばしてきたのは何故でしょうか。

竹村 創業時から「おしえる・つくる・つたえる」の3事業に専念し、常に時代の先端を行く指導法、教材を開発してきたからこそ自負しています。人に恵まれたのも大きいです。同じ考えの仲間や教室を支えてくれる会員が大勢います。そしてmpiの教材を販売してくださる業者の皆様のおかげでここまで来ることができました。学校だけでなく、地域の英語教室や進学塾でも教材を活用していただき、フォニックスやmpiメソッドの効果が広く浸透したおかげだとも考えています。

昨年、緊急事態宣言が発令され、弊社も急遽テレワークに移行しました。授業やセミナーをオンラインで行っていくために、社員が様々な工夫をしてくれました。こ

のように多くの人に支えられたおかげだと感謝しています。

——小中学校とも英語教育が大きく変わっています。これからどう指導すれば良いか助言をお願いします。

竹村 新学習指導要領では知識を覚えるのではなく、自分で考えて発信できる児童・生徒の育成を求めています。フォニックスもその一つですが、ICT教材を効果的に活用することで、学習意欲を高め、自ら学ぼうとする力を身につけさせる。そういった指導を行うことが肝要だと考えています。

——本日はありがとうございました。



大阪府教育庁の依頼で製作したDVD教材は全国1800の小学校で採用されている